企画・制作
全国賃貸住宅新聞社 企画営業
広　告

太陽光投資を始めた FPで不動産投資家の北野琴奈さん 太陽光発電の市場動向について専門家と対談

今回のゲストは昨年、太陽光投資を開始したファイナンシャル・プランナーであり不動産投資家の北野琴奈さんと、太陽光発電の月刊誌『PVeye』の発行人兼編集長を務める川副暁優さんのお2人を招いた。投資家と専門家の目線で太陽光発電を見つめ、今後の動きはどうなっていくのかを語ってもらった。

ヴィズオンプレス 川副社長
×
北野琴奈さん
対談

ファイナンシャル・プランナー
（日本FP協会認定　CFP® 認定者）
北野 琴奈

太陽光投資、運用の実体験コラム更新中!
「北野琴奈の初めての太陽光投資
～エコな未来をめざして～」
http://ecofuture-kitano.com/

資産の入れ替えをする中で新たに始めたのが太陽光投資

司会　本日は国内外に収益物件を所有し、ファイナンシャル・プランナーとしても活躍する北野琴奈さんと、太陽光発電の月刊誌『PVeye（ピーブイアイ）』を手掛ける川副暁優社長にお越いただきました。

まず、北野さんは太陽光投資を検討されていて、昨年開始したとお聞きしました。太陽光投資を始めた経緯と、運用する中での感想をお聞かせください。

北野　不動産投資・賃貸経営を開始して10数年経ち、現在、資産の入れ替えを行っています。その中で新たに始めたものが太陽光投資です。太陽光発電所が完成すると、発電した電気を20年にわたって一定価格で電力会社に売電でき、それが固定価格買取制度（FIT）によって守られているので、空室リスクのようなものがありません。太陽光発電は天候の影響を受けますが、曇りや雨でも発電がゼロということはほとんどありません。昨年の10月に発電を開始してから全く発電しなかったのは大雪が降った1・5日くらいで、これまで順調に稼動しています。発電状況も、遠隔監視装置によって毎時間の発電量がインターネット上から確認できます。

川副　不動産投資と比較して、メリット・デメリットと思うことはどのような点ですか。

北野　太陽光投資は、天候に左右されますが、これまでの日照量実績に基づいた予測ができ大きく外れることはあまりありません。一方、賃貸経営はいつ退去が発生し、空室が発生するか予測できません。また、エレベーターなどの法定点検、大規模修繕、原状回復費、入居者募集など自身の裁量でしなければならないことが多くあります。逆に言えば、自身の経営力を発揮して収支を改善していくことも可能だということですね。太陽光投資の場合、草刈りなどメンテナンスは多少ありますが、一度設備を導入してしまえば収入・支出をコントロールするために動くことがあまりなく、不動産投資と対極にあるといえると思います。

ただ不動産は売却による出口を想定しやすいですが、太陽光投資は20年後の固定価格買取終了後にどうなるかの見通しを立てづらいことが弱点だと感じます。

司会　太陽光発電の買取価格は24円から21円に下がり、もうメリットはないのではないかと感じる投資家も見受けられます。さらに太陽光発電の関連企業が倒産したというニュースも見聞きしますが。

川副　FITは2012年7月に始まり、数年間は買取価格が高く設定されていたので、太陽光発電の導入が加速しました。それまで1GW程度だった年間の導入量が、2015年には10GWを超えましたから、わずか3年で10倍に拡大したのです。設備メーカーや発電所の建設業者にとっても、比較的容易に利益が得られる環境が築かれていたので、新規参入ラッシュが起こります。しかし、買取価格が年々下がり、現在は当初の約半分です。品質を維持しつつ競争力があり、さらに新しい商品やサービスを提供できる企業しか利益を得られない状況になってきました。つまり、環境が厳しくなり、実力のない企業が淘汰されているのです。

北野　では太陽光発電の市場は今後どうなっていくのでしょうか。

川副　淘汰が進むと、品質と競争力、さらに新しい商品やサービスを提供できる強い企業が残ります。結果として、太陽光発電設備は電源として競争力が増しますから、国が太陽光発電の普及に対してブレーキをかけない限り、市場は健全な形で存在し続けると思います。

太陽光発電の市場は健全な形で存在し続ける

ヴィズオンプレス株式会社
代表取締役社長
川副 暁優

では、国が太陽光発電にブレーキをかけるかどうかについてですが、歴史を振り返ると、日本で太陽光発電の開発が本格化したのは1973年のオイルショックがきっかけです。石油価格が急騰し、経済が大混乱に陥ったので、化石燃料に依存せず、自国でまかなえる新しいエネルギーを根づかせようということでした。90年代に入ると、地球温暖化問題が取り沙汰され、CO2排出削減の観点からも、ますます新エネルギーは重要なものと位置づけられます。

ただ、当時の本命は原子力発電でした。再生可能エネルギー以上に原子力政策が進められましたが、ご承知のとおり、3・11、福島原発事故が起こってからは、原発に依存できなくなりました。いま原発の再稼働が進められていますが、今後いくつも原発を新設していくことは難しいでしょう。残る選択肢は再エネしかないのです。

司会　再生可能エネルギーのうち、太陽光発電以外のバイオマスや風力・水力発電などはうまく活用できないものでしょうか。

川副　今のところ、風力発電や地熱発電、バイオマス発電はそれぞれに課題があり、それほど普及していません。パリ協定では、日本は2030年までに全電源に占める再エネ比率を22～24%、太陽光発電は7%を目安としていますが、このような状況では、太陽光発電の比率をさらに上げていかなければならないでしょうね。

北野　太陽光発電に投資をすることは、日本のエネルギーを担うという考えを持つ必要がありますね。

川副　おっしゃる通りです。太陽光発電の投資家は各自が発電所を所有し、日本のエネルギーを担っていることを自覚して運営していくことが求められています。

司会　本日はどうもありがとうございました。

全国各地で毎月開催中!
太陽光投資物件説明会
表面利回り 10%以上 の
優良物件を多数取り揃え!
日時：8月 8日(火)18:00～19:00
8月19日(土)10:30～11:30
場所：丸の内永楽ビルディング20階
（株式会社エコスタイル東京本社）
住所：東京都千代田区丸の内1丁目4番1号
ご予約・お問い合わせ
0120-010-715（フリーダイヤル）
あんしん太陽光発電 エコの輪
全国会場・日程の詳細は http://www.taiyo-co.jp/ エコの輪 検索
※すでに弊社とご契約をいただいているお客様の参加はご遠慮ください。
株式会社エコスタイル
[東京本社]〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 丸の内永楽ビルディング20階
[大阪本社]〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町1丁目4番6号 ミフネ道修町ビル3階